

# 茨城大学学報

第313号

平成26年2月～平成26年3月



平成25年度卒業式後の記念写真（茨城県武道館）

## INDEX

- ◆ 大学発ベンチャー称号記授与式を開催
- ◆ 第4回理学部FD講演会を開催
- ◆ 平成25年度学生地域参画プロジェクト実施報告会・審査会を開催
- ◆ 平成25年度国立大学図書館協会関東甲信越地区協会研修会を開催
- ◆ 大学院教育学研究科インターンシップFDを開催
- ◆ 平成25年度卒業式
- ◆ 人文学部が石岡市と地域連携に関する協定を締結
- ◆ 平成25年度定年退職者等永年勤続者表彰式・懇談会を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ 大学発ベンチャー称号記授与式を開催

茨城大学発ベンチャー称号記授与式が、平成 26 年 1 月 29 日（水）に学長室で行われました。今回の授与式は、本学における研究成果や人的資源等を活用して起業したベンチャー企業に対し「茨城大学発ベンチャー」の称号を授与することにより、支援を行うことを目的として開催されました。

今回、平成 25 年 12 月に茨城大学発ベンチャーの称号を得た、エフシー開発株式会社、株式会社MEPJ、株式会社バイオフォトケモニクス研究所、株式会社M&M研究所、株式会社商輪の 5 企業の代表者に称号記が授与されました。

授与式には、池田幸雄学長、大久保政博学術企画部長等が出席し、池田学長から各企業の代表者に称号記が手渡されました。

記念撮影後の懇談会では、各企業から事業内容の説明があり、池田学長からは称号が授与された各企業へ激励の言葉が送られました。



茨城大学発ベンチャー称号記を授与する池田幸雄学長



茨城大学発ベンチャー称号記授与式での記念撮影

## ◆ 第4回理学部 FD 講演会を開催

理学部では、平成 26 年 2 月 14 日（金）に K 棟インタビュースタジオにおいて、文部科学省大臣官房付（元高等教育局長）の磯田文雄氏を講師にお招きして、「国立大学法人制度について」と題して、第 4 回 FD 講演会を開催しました。この講演会は理学部の FD 活動の一環として開催されたものであり、講演の様子は水戸キャンパスの他、日立キャンパス（工学部）、阿見キャンパス（農学部）にもリアルタイムで配信され、理学部のみならず、全学の教職員、学生を含めて 80 名を超える多くの参加者が集まりました。

講演会では、平成 16 年の国立大学法人化の目的・背景、文部科学省の方針、現在までの状況の変化、国立大学をめぐる諸課題について、詳しく説明がありました。また、国立大学の改革に当たっては、各大学においては徹底的な議論を通して自らの使命を考え、政府の方針に柔軟かつ大胆に対応していくことが重要であるとの認識が示され、聴講者との間で意見交換を行いました。今後、大学改革を実行していく上で、とても有意義な講演会となりました。



講演を行う磯田文雄氏



講演を聴く参加者

## ◆ 平成25年度 学生地域参画プロジェクト実施報告会・審査会を開催

平成26年2月17日(月)、水戸キャンパス理学部K棟インタビュースタジオにおいて、平成25年度学生地域参画プロジェクト実施報告会・審査会を開催しました。

学生地域参画プロジェクトとは、学生が主体となり、地域社会と連携した社会貢献につながる活動に対して、茨城大学社会連携事業会と茨城大学教育研究助成会が支援するプロジェクトで、平成17年度から実施され、今年で9年目を迎えました。

今年度は、前年度からの継続となる3プロジェクトを含む、12プロジェクトの活動報告が行われ、審査員からは、「新規プロジェクトのユニークな活動や、今までに無い新しい試みが増え、今後に期待したい。また継続プロジェクトも、地域との連携を強め、堅実な活動を続けることで、着実に地域へ根付いてきている」との意見が寄せられました。

報告会后に開かれた審査会の結果、最優秀プロジェクトとして、地域のステークホルダーと連携し、事業内の役割を分担して実施する協力体制を築いたこと等が評価された「茨城大学地質情報活用プロジェクトー茨城県北ジオパークを通じた地域貢献ー」が選出されました。

また、食農教育など農学部独自の特色ある取り組みが評価された「のらボーイ&のらガールの食農教育プロジェクトーNo Food, 農 Lifeー」及び地域住民の要望を受け、地域外向け事業へと方針転換を行ったことが評価された「大洗応援隊！～情報発信基地&人と人をつなぐ場所「ほげほげカフェ」～」がそれぞれ優秀プロジェクトに選出されました。

なお、最優秀プロジェクト及び優秀プロジェクトの3団体は、平成26年3月20日(木)に行われる学生表彰式にて表彰されました。



プロジェクト活動報告の様子

## ◆ 平成25年度国立大学図書館協会関東甲信越地区協会研修会を開催

平成25年度国立大学図書館協会関東甲信越地区協会研修会「Beyond Library, Beyond Librarian」が平成26年2月20日（木）に開催され、各県の国立大学図書館から26名が参加しました。開催当番校の本学が現在、図書館改修工事中のため、筑波大学附属図書館の会場を借りての開催となりました。

研修会では、大学人としての図書館職員の意識改革、埋もれがちな研究データの管理・活用のための最新技術、学術用計算機資源共有化の試みなど、激変する環境の中で図書館がより効果的に大学の教育・研究に貢献していくための取組や技術に関する講演が行われました。

講演は図書館分野のみならず、大学運営、計算機科学など専門分野の異なる幅広い講師陣によって行われ、参加者は真剣に聴き入っていました。講演後は活発に質疑応答が交わされる場面もありました。

研修終了後、受講者からは「さまざまなトピックに触れられて良かった」、「図書館を取り巻く様々な状況を知ることができた」などの感想が寄せられました。



研修会の様子

## ◆ 大学院教育学研究科インターンシップFDを開催

大学院教育学研究科は、平成 25 年度、教育学部附属小・中学校と連携して国語と数学の院生 12 名がインターンシップのトライアルを行い、1 年間の報告と次年度に向けた課題の検討を目的として、平成 26 年 3 月 4 日（火）に大学院インターンシップFDを開催しました。参加者は、大学院教員、附属学校関係者、大学院生の総計 58 名でした。

今回のFDでは、まず教育学研究科の尾崎久記研究科長の挨拶のあと、小川哲哉大学院専門委員長が、大学院段階の教員養成政策の動向を紹介しました。

ディスカッションでは、院生からは、給食の時間のあり方、掲示物の役割と効果、バス下車後の生徒の行動と校則の関係など学校の現状について率直な意見が述べられました。受入側の附属小・中学校の教員からは、「実際に教員になる前に、大学院生の立場から小・中学校を観ることは良いことであり、観察だけでなく、附属学校へもっと関わってよい」という意見が出されました。教育学研究科の教員からは、「現場の先生が気づかないことに気づくことは重要であり、大学はどのように能力育成するかプログラムを検討しなければならない」、「大学は、院生の問題提起を受け止められるのか」などの意見がありました。



附属学校の意見を述べる佐藤隆附属中学校副校長



校則について発表する大学院生（関千亜紀さん）



大学院教育学研究科インターンシップFDの様子

## ◆ 平成25年度卒業式

平成26年3月25日（火）午前10時から茨城県武道館において、学長、役員はじめ来賓等の参列のもと、平成25年度茨城大学卒業式が挙行政され、2,097名の卒業生が巣立ちました。



式は、本学管弦楽団の前奏に始まり、池田学長から学部、大学院および専攻科の卒業生、修了生の学部等総代に学位記、修了証書が授与され、池田学長より、「世界中の人々は、全て“近い親戚”であり、互いに理解し、協力し合う仲間であることを、是非、忘れないで頂きたいと思ます。また、諸君は卒業後、茨城大学で培ってきた実力を十分に発揮して、それぞれの分野で頑張るって頂きたいと願っています。

茨城大学は今後とも皆さんを応援し続けます。」と祝辞が贈られました。

また、卒業生・修了生総代人文学部コミュニケーション学科 田山仁美さんから「本日卒業する私たちは、社会に出る者、進学する者、様々な形で各々が決めた道を歩んでいきます。この四年間は私たちの誇りであり、未来を切り開いていく力となるでしょう。この大学生活で学んだことを今後の人生に活かし、社会へ貢献していくため、卒業生一同今後とも精進してまいります。」と答辞があり、最後に参列者全員による校歌斉唱で閉式となりました。



## ◆ 平成25年度卒業式告辞

茨城大学長 池田 幸雄

ようやく春めいて参りました。梅の花も咲き誇っている今日この頃でございます。本日、茨城大学をご卒業される2,097名の学生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。また、学生諸君を励ましつつ、ご支援下さいましたご家族の方や関係者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

現在の21世紀は激動する世界であり、全ての社会は急激な変貌を遂げつつあります。この様な社会では、如何なる激変にも的確に対応でき得る、優秀で積極的な若者を多く必要としています。今日ご卒業する諸君は、社会に出て新たな人生を始める人や、大学に残って勉学を続ける人など、様々な進路に向かおうとしています。あなたが、社会から期待されている人材であることを、常に認識して頂きたいと思えます。



さて、この激動する21世紀は、「情報科学」と「生命科学」の時代であるといわれています。21世紀の「情報科学」は、コンピューターの急速な発展に加えて、各種のソーシャル・メディアは、様々な情報を一瞬のうちに世界に発信しています。日常生活では携帯電話やスマート・フォンなどが当たり前になり、全ての人が便利な生活を享受するに至っています。この十数年のうちに、公衆電話が街からなくなり、家庭に普通にみられたアナログ・テレビはことごとくデジタル液晶テレビに交代しました。今後も「情報科学」は更なる発展を続ける事でしょう。あなた方若者は、この急激に発展する情報科学と生涯を共にする運命にありますので、是非、上手に付き合ってくださいと思えます。

一方、最近の生命科学は、情報科学に劣らない程の発展を遂げています。この「生命科学」のうちでも、特に注目されるのが分子遺伝学です。この分野では、「人ゲノム」といわれる人間の遺伝子の解析が21世紀初頭に行われ、人間の複雑なDNA遺伝子がほぼ完全に解明されました。これらの遺伝子の塩基の配列をゴリラやチンパンジーの遺伝子と比較すると、類人猿の進化過程が明らかになりました。また、世界中の人種を含む現代人の遺伝子の違いを調べる事により、現在の我々「ホモ・サピエンス」のルーツが解明されました。

この我々現代人のルーツについて、少し詳しくお話したいと思います。

我々「ホモ・サピエンス」は、アフリカ東部で「古代人型人類」から約 20 万年程前に分岐しました。この新たな「ホモ・サピエンス」の女性は、特徴的なミトコンドリア遺伝子を持っている事が分かり、更に、6、7 万年前にはホモ・サピエンスの男性に特徴的な「Y 染色体遺伝子」が出現しました。現代人の女性も男性もすべて、これらの特徴的な遺伝子を持っていますので、我々、全ての現代人は、6 万年前頃のホモ・サピエンスの直接の子孫である事が明瞭です。



この祖先はアフリカ北東部で狩猟民として、50 人から 150 人程度の集落を作って生活していたようです。しかしながら、世界的寒冷化に伴い、アフリカ北東部は干ばつが厳しく、狩猟民の生活を圧迫していました。そこで、約 6 万年前に約 150 人程度の褐色の肌を持つホモ・サピエンス集団がアフリカを脱出して、中東を経由し、世界各地に拡散して行きました。ヨーロッパに向

かった人々は、太陽光が弱いため徐々にメラニン色素が減少し、白色人種に変化しました。アジアに向かった人々は、メラニン色素が多少減少し、黄色人種になりました。アフリカの太陽光の強烈な地方では、メラニン色素が増加し、黒色人種になりました。この様にして、わずか 6 万年のうちにホモ・サピエンスは世界中に拡散し、肌や髪の毛などの色は、環境に対応して簡単に変化し、現在の各種の人種になったと考えられています。

ホモ・サピエンスは、「古代人型人類」よりも頭脳が発達し、発声能力が優れていました。このため、我々の祖先は、6 万年以降、石器や槍などの道具を巧みに利用して、食糧の確保に努めたようです。また、言葉を使って仲間同士のコミュニケーションを図り、共同生活を充実拡大して、強力な集団になっていったと思われます。この様にして、ホモ・サピエンスは世界各地で発展し人口も増加しました。このホモ・サピエンスは、約 1 万年前に農耕生活を開始し、新たな発展が始まって、現在に至っています。以上が、最近、明らかになった「我々現代人のルーツ」のあらすじです。

しかしながら、20 世紀では、全く違ったルーツが一般的で、現代人が別々の「古代人型人類」から別々に進化したと考えられていました。例えば、ネアンデルタール人から白人が進化し、北京原人から東アジア人が進化し、ジャワ原人から東南アジア人が進化したと思われていました。しかし、これらの「古代人型人類」は、現代人に特徴的な遺伝子を持っていないので、現代人の直接の祖先ではあり得ない事が明瞭です。この 20 世紀の考え方は、21 世紀初頭の 10 年間で、全く新たに塗り替えられてしまいました。



さて、現在の 21 世紀では、グローバル化が急速に進行しています。このグローバルという言葉は、全地球的という意味で、主に政治的・経済的側面から主張されています。最近、日本の政府や産業界から、大学に対して「グローバル人材を育成せよ」との強い要請があります。本学をふくむ多くの大学は今後この「グローバリゼーション」の方向性を強める事になるでしょう。今日、卒業する諸君は、社会から「グローバル人材」であることが強く期待されています。諸君はこの社会からの期待に応えつつ、日本や世界で活躍する事になるでしょう。

この際、あなた方の胸に秘めて置いて頂きたい事が一つあります。私達は、人種だの、民族だの、部族だの、と現代人を区別しますが、生命科学の観点から見れば、この違いはアヒルとガチョウの違いよりも遥かに小さいのです。一言でいえば、「我々ホモ・サピエンスの世界は一つ」という事であり、この認識こそが、現在の「グローバリゼーション」の根幹をなしています。世界中の人々は、全て「近い親戚」であり、互いに理解し、協力し合う仲間である事を、是非、忘れないで頂きたいと思います。

最後になりましたが、諸君は卒業後、茨城大学で培ってきた実力を充分に発揮して、それぞれの分野で頑張りたいと願っています。茨城大学は今後とも皆さんを応援し続けます。卒業生諸君の健康と今後の活躍を心から祈念致しまして、学長告辞の結びと致します。本日は、ご卒業、本当におめでとうございます。

## ◆ 人文学部が石岡市と地域連携に関する協定を締結

平成 26 年 3 月 26 日（水）、人文学部は石岡市との間に地域連携に関する協定を締結しました。人文学部からは伏見厚次郎学部長ほか 4 名、石岡市からは今泉文彦市長ほか 3 名が出席し、協定書を取り交わしました。

伏見学部長からは、協定締結により学部の実践的な教育と研究がより一層促進され、地域課題の改善と解決に石岡市とともに取り組むことへの意義と期待が表明されました。今泉市長からは、人口減少による高齢化と少子化に対応する地域社会存続のための新たな枠組みの検討が必要であることが強調され、その実現に向けて人文学部との協定締結に大きな期待を寄せられました。

人文学部は、昨年 10 月に部内に発足させた「市民共創教育研究センター」が中心となり、今後、茨城県北地域の自治体や県南・県西地域の拠点都市との地域連携に関する協定締結を進め、より一層地域社会と共に教育と研究、地域課題の改善と解決に向けた取り組みの推進を目指しております。



握手を交わす伏見人文学部長と今泉石岡市長

## ◆ 平成25年度定年退職者等永年勤続者表彰式・懇談会を開催

平成26年3月をもって本学を定年等により退職された職員を対象とした永年勤続者表彰式が平成26年3月28日（金）に事務局第2会議室で行われ、役員等の出席のもと、長年にわたって勤務された職員一人一人に池田幸雄学長から表彰状が手渡されるとともに、多年の勤務に対するねぎらいのお言葉がありました。



定年等退職者懇談会の様子

表彰式に引き続き、本学を定年等により退職される大学教員を交え、昼食を取りながら懇談会が開催され、学長から退職記念品が贈られ、教職員それぞれがこれまでの様々な思い出などを語り合いながら終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



永年勤続表彰式後の記念写真

被表彰者（職種－所属－職名－氏名 50音順、敬称略）

### ●事務系（事務）職員

椎名俊雄（学務部長）、金田富雄（学生生活課長）、細谷貞好（理学部事務部事務長補佐）、加藤孝一（工学部事務部事務長）

### ●技術系職員

武田 誠（工学部技術部 総括技術長）

以上5名